

ここが知りたい!

宮城県

～復興へ頑張ろう!～

東日本大震災のような大規模災害発生時には、住民の自助・互助による防災活動が重要であることが再認識されました。そのため、大規模地震などの災害に備えた木造住宅の耐震化をさらに促進するほか、自治会や町内会など、地域コミュニティの中で組織される自主防災組織の活動を支援するため、市町村と連携して組織づくりや地域防災リーダーの育成を推進するなど、地域全体で防災に取り組む体制の確立を支援していきます。

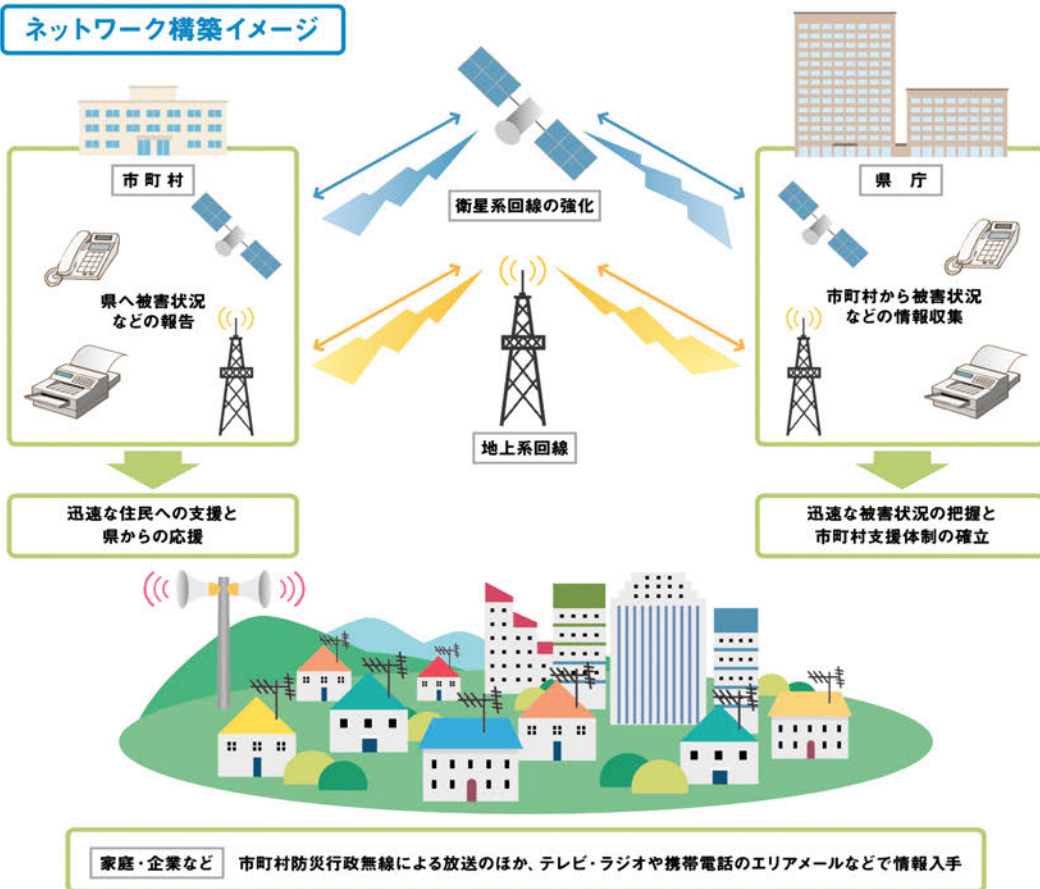
市民レベルの防災体制確立

沿岸市町では、大津波により多くの人命が失われ、相当数の家屋が損壊・喪失するなど甚大な被害を受けました。この教訓や地域における歴史的な観点を踏まえ、被災市町のまちづくりの方向性と整合を図りながら、高台移転・職住分離や多重防御といった新しいまちづくりを進め、居住空間の安全・安心を確保します。

安全・安心なまちづくり

沿岸市町では、大津波により多くの人命が失われ、相当数の家屋が損壊・喪失するなど甚大な被害を受けました。この教訓や地域における歴史的な観点を踏まえ、被災市町のまちづくりの方向性と整合を図りながら、高台移転・職住分離や多重防御といった新しいまちづくりを進め、居住空間の安全・安心を確保します。

ネットワーク構築イメージ



防災体制の再整備

東日本大震災で発生した大津波により、沿岸部では市町や県の行政庁舎などが壊滅的な被害を受けて行政機能が低下し、被害状況などの把握が困難になったほか、通信の殺到に伴い「回線がつかない」といった問題も発生しました。県では人的支援などを通じて被災市町の行政機能の回復を支援しているほか、「衛星携帯電話の配備による非常通信手段の確保」や「備蓄物資の保管施設の分散」など、迅速な支援が行えるよう防災体制を整備しています。今後は、損壊・流出した消防・防災施設等の復旧強化や、衛星通信などを組み合わせた災害に強い通信ネットワークの構築など、防災体制の再整備を進め、大規模災害に備えた資機材・食料の備蓄や原子力防災体制等の再構築、災害時の医療体制の確保や教育施設における地域防災拠点機能の強化など、災害に対する備えを着実に進めていきます。

宮城県は震災復興に全力で取り組んでいます

避難タワーを敷地内に設置

日鉄住金建材仙台製造所

仙台市宮城野区の仙台港にある日鉄住金建材仙台製造所は、東日本大震災で高さ3メートルの津波に襲われた。しかし、日頃の訓練成果を生かし、慌てずに全従業員76人が素早く敷地内の築山に避難。津波は足元まで迫ったものの、1人も巻き込まれずに済んだ。

平山憲司所長は「避難マニュアルを整備し、その通りに訓練しておくことの大切さを思い知った。そして高さ5メートルの築山の存在に助けてもらった。工場の創業時に築山を発見した先輩たちのおかげ」と感謝する。

その教訓と高い防災意識を生かして、新たに敷地内に建設したのが津波避難タワーだ。7.8メートルの高さがあり、地中6メートルの基礎に建つ。外壁は一切なく、津波の後方に逃がす構造になっている。

二層構造で屋上部分の広さは約70平方メートル。100～150人が避難できる。停電でも電気を供給する太陽光発電の照明設備のほか、防災用具、食料などを備蓄できる保管スペースもある。

「構造はシンプルだが、頑丈で津波に強い。有事の際は、周辺住民もタワーを頼りにしてほしい」と平山所長は話す。

新日鉄グループの日鉄住金建材は、このタワーを「セーフガードタワー」の名称で製品化し、販売している。被災地にとどまらず全国から関心を呼んでいる。



事務所隣接地に建設された避難タワーと平山所長

防災体制の再整備など

東日本大震災により流出した消防・防災施設等の復旧強化を行うほか、通信速度の向上やメール配信など、情報伝達・情報通信基盤の再構築を行います。また、大規模災害に備えた発電機、トイレ、毛布などの防災資機材や飲料水、食料などの備蓄を進め、県内拠点となる3カ所に分散して保管・管理することにより迅速な支援体制の整備を図ります。

地域防災計画の見直し

県では宮城県沖地震などの自然災害の発生に備え、地域防災計画を策定し、各種の防災対策を推進してきました。東日本大震災を受け、防災対策の一層の強化を図り、災害に強く安心して暮らせるまちづくりを進める必要があることから、国の防災基本計画の修正なども踏まえ、地域防災計画の見直しを行います。

総合防災訓練の実施

県災害対策本部事務局職員などの災害対応能力の向上および自衛隊などの防災関係機関との連携強化を図ることを目的として、今年6月に震災後初となる6.12総合防災訓練を実施し、9月には、市町村、消防本部(局)との連携強化を図ることを目的とした9.1総合防災訓練を実施しました。また、11月には津波を中心とした災害対応能力の向上や防災意識啓発などを目的とした訓練を実施する予定です。

震災記録の作成と防災意識の醸成

東日本大震災の記憶を風化させないよう「震災の記録」を作成し後世へ語り継いでいくほか、防災に対する県民の意識の醸成を図るために、防災教育や意識啓発活動の推進を図ります。

防災指導員養成講座を開催

災害発生時には、国、県、市町村といった行政による「公助」に加え、地域住民や企業等の「自助」「共助」による活動が重要です。県では、自治会や町内会など地域コミュニティの中で組織される自主防災組織において中心的役割を果たす地域防災リーダーを養成するため、防災指導員養成講習「地域防災コース」を市町村の協力を得て開催します。県内各地で開催することとしており、開催市町村に在住する方が対象となります。受講を希望される方は、所定の受講申込書で開催市町村防災担当課にお申し込みください。また、事業所などで震災対策を推進する方を養成するため「企業防災コース」の開催も予定しています。詳しくは県危機対策課ホームページをご覧ください。

宮城県 危機対策課 検索

独自の防災マニュアル実践

仙台市宮城野区の福住町町内会

仙台市宮城野区の福住町町内会は、東日本大震災の発生からわずか1時間ほどほとんどの世帯の安否を確認し、集会所に避難所を設けた。津波被害はなく、備えていた機材で調理し、近隣の市指定避難所にも食事を届けた。町内会長を務める獣医師の菅原康雄さんは「毎年秋の訓練と同様、住民は自然と体が動いていた」と振り返る。

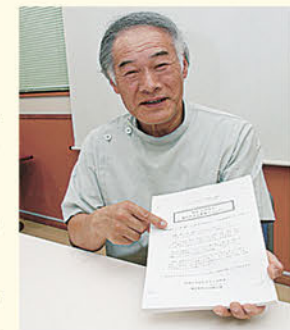
迅速な行動の源は、2003年に策定した独自の防災マニュアル。災害時の役割分担や緊急連絡先、家庭ごとの備えを記し全世帯に配った。

さらに、発電機や毛布、食料、雨水タンクなどを整備。ほぼ全世帯約400戸の家族構成や連絡先をまとめた名簿と、要支援者リストも作り、役員で共有してきた。

菅原会長は「できるだけ行政に頼らず、自分たちの町は自分たちで守る『自助』と、より困っている人々を助ける『他助(共助)』が信条」と話す。

県内外五つの町内会・団体と結ぶ災害時相互協力協定にも助けられた。発生から4日目に山形、長野両県の団体が物資を届けに駆け付けた。

菅原会長は「心強かった。雪かきや夏祭りの助っ人など、日頃から築いてきた信頼関係が実を結んだ」と感謝。「大震災では、どの地域でも住民同士が助け合った。この経験と絆を継続してほしい」と呼び掛けている。



防災マニュアルを説明する菅原会長

企画/県広報課 ◎お問い合わせ/県危機対策課 022(211)2376

県からのお知らせ

身体障害者を対象とした宮城県職員採用選考考査

- 職種および採用予定人員/①一般事務(大学卒業程度)若干名②一般事務・学校事務(高等学校卒業程度)若干名
- 応募資格/身体障害者福祉法第15条に定める身体障害者手帳の交付を受け、その障害の程度が1～6級の方(そのほかの受考要件あり。大学卒業業者などは②の受考不可。点字などによる受考可能)
- 対象年齢/①昭和58年4月2日から平成3年4月1日までに生まれた方②昭和58年4月2日から平成7年4月1日までに生まれた方
- 給与・待遇等/県の規定による
- 第1次考査日/12月4日(火)
- 申込期限/11月9日(金)(消印有効)
- ◎ 県人事課 ☎ 022(211)2227

「出前ジョブカフェ」を開催します!

- 仙台市内から遠隔地に住む39歳以上の求職者の就職を支援します(参加無料、要予約)。
- 内容/就職支援セミナー、キャリアカウンセリングなど
- 期日・場所/①10月12日(金)・亶理町連峰公民館②10月19日(金)・大河原町駅前コミュニティセンター③10月24日(水)・名取市文化会館④10月10日(水)・塩竈市公民館⑤10月11日(木)・18日(木)・ハローワーク石巻⑥10月臨時会⑦10月16日(火)・30日(火)・大崎市市民活動サポートセンター⑧10月22日(月)・登米市市民公民館⑨10月10日(水)・17日(水)・24日(水)・31日(水)・県気仙沼合同庁舎
- ◎ みやぎジョブカフェ ☎ 022(217)3562 <http://www.miyagi-jobcafe.jp/>

公共事業再評価に関するご意見募集

- 公共事業再評価に関する資料を公表し、県民の皆さんのご意見を募集しています。
- 対象事業/川内沢ダム建設事業(実施箇所:名取市)
- 資料公表場所/県政情報センター、各地方振興事務所(仙台を除く)県政情報コーナー、県議会図書室(県議会庁舎)、下記ホームページ
- 提出方法/10月11日(木)(消印有効)までに郵送、ファクシミリ、Eメールのいずれかで下記へ
- ◎ 県政復興政策課 ☎ 022(211)2406 FAX 022(211)2493 〒980-8570(住所不要) Eメール seisakuken@pref.miyagi.jp <http://www.pref.miyagi.jp/seisaku/>

子育て応援団すこやか2012

- 子どもを楽しく育てることのできる社会環境づくりを目指し、地域や関係団体、企業、行政などと結成された子育て応援団が楽しい子育てを応援します。
- 内容/アンパンマンショー、親子で楽しめるワークショップ、歯医者にさんによる歯周病チェックなど(入場無料、申込不要)
- 日時/10月27日(土)、28日(日)いずれも午前10時～午後4時
- 会場/セキスイハイムスーパーアリーナ(グランディ・21)
- ◎ 県子育て支援課 ☎ 022(211)2528

みやぎ県民大学受講生募集

- 県図書館が持つ多彩で豊富な所蔵資料などをもとに、職員がテーマに沿って分かりやすく講義します(受講無料)。
- 対象/定員/県内にお住まいの18歳以上の

みやぎまことフェスティバル2012

～感謝を込めておもてなし～

- 内容/県産農林水産物や加工品、工芸品の展示、実演、販売のほか、郷土芸能や県内高校生とのステージ、さとう宗幸さんのライブ、仮面ライダーウィザードショー、スタンブラーなど(入場無料)
- 日時/10月13日(土)、14日(日)いずれも午前10時～午後4時
- 会場/県庁、仙台市公園、市民広場
- ◎ ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。
- ◎ 県食産業振興課 ☎ 022(211)2815

全国地域安全運動

- 10月11日から20日までは、全国地域安全運動期間です。県民の皆さんが安全で安心して暮らせる社会の実現に向けて、まずは身近な人たちと、防犯について考えてみましょう。
- 犯罪は、皆さんの地道な声掛けや自主防犯パトロールによって、なくすることができ、防犯活動に積極的に取り組み、安全・安心な地域を築き、魅力ある「みやぎ」をみんなで作ります。
- ◎ 詳しくは、下記ホームページをご覧ください。
- ◎ 県警生活安全企画課 ☎ 022(221)7171 <http://www.police.pref.miyagi.jp>

食の安全安心セミナー開催

- 内容/講演「食品中の放射性物質」(講師:内閣府食品安全委員会、消費者庁の職員)、意見交換(参加無料)
- 定員/250人(申し込み先着順)
- 日時/10月23日(火)午後1時30分から
- 場所/県庁2階講堂
- 申し込み/10月9日(火)から17日(水)までに電話により下記へ
- ◎ 県食と暮らしの安全推進課 ☎ 022(211)2643

初級障害者スポーツ指導員養成講習会

- 応募資格/障害者スポーツに興味・関心があり、将来にわたるスポーツ指導員として活動できる方で、全国受講可能な方
- 定員/30人(申込多数の場合抽選)
- 期日/11月17日(土)、25日(日)、12月8日(土)、9日(日)(全4日間)
- 場所/仙台市若林体育館、宮城県総合運動公園
- 受講料/4000円(テキスト代など)
- 申込期限/10月18日(木)(必着)
- ◎ 詳しくは、下記へお問い合わせください。
- ◎ 宮城県障害者スポーツ協会 ☎ 022(257)1005

石巻高等技術専門学校IT基礎実践科(短期課程)受講生募集

- 内容/初心者の方を対象としたパソコン事務処理技能の習得と企業実習訓練
- 対象/定員/求職活動中、ハローワークに相談しており、公共職業安定所長の受講指示、受講推薦または支援指示を受けられる方・20人
- 訓練期間/11月21日(水)～平成25年3月19日(火)(うち企業実習1カ月)
- 訓練場所/石巻経済学校
- 申込期限/10月9日(火)～31日(水)
- 選考日/11月6日(火)(面接)
- 費用/受講料無料、教材費約1万4000円
- ◎ 申込先/各ハローワーク
- ◎ 石巻高等技術専門学校 ☎ 0225(22)1719 <http://www.pref.miyagi.jp/is-kougi/>

宮城大学看護学部シンポジウム

- 内容/「災害時の「学校」と「地域」のつながり～避難所となった学校の救助活動から見えてきたこと～」(宮城教育大学保健体育講座 黒川修行講師ほか)(参加無料)
- 日時/10月27日(土)午後1時15分～4時15分
- 場所/宮城大学大和キャンパス大講義室(黒川郡大和町学苑1-1)
- 申し込み/10月22日(月)まで、電話、ファクシミリ、Eメールにより下記へ
- ◎ 詳しくは、下記ホームページをご覧ください。
- ◎ 宮城大学地域連携センター ☎ 022(377)8414 FAX 022(377)8282 Eメール renkei@myu.ac.jp <http://www.myu.ac.jp/>

労務間トラブルでお困りの労働者・事業主の皆さんへ

- 県労働委員会では、解雇、賃下げ、パワーハラスメントなど労働関係をめぐる労働者個人と事業主との間の紛争について、中立的な立場で労務間の話し合いによる紛争の解決をサポートする「あっせん」を実施しています(費用無料、秘密厳守)。
- また、10月19日(金)、20日(土)に、県石巻合同庁舎において労働委員会委員による労働相談会を開催します(予約優先)。
- ◎ 詳しくは、下記ホームページをご覧ください。
- ◎ 県労働委員会事務局 ☎ 022(211)3787 <http://www.pref.miyagi.jp/tirou/>

平成24年度みやぎ食育フォーラム

- 内容/基調講演「共食」食ですめる食育・健康づくり(講師:名古屋学芸大学健康・栄養研究所長 足立幸氏)、シンポジウム「みやぎの食育は「共食」につくる・食べるから」みやぎ食育表彰式など
- 日時/11月2日(金)午後1時～4時
- 場所/仙台市太白区文化センター楽楽ホール
- 申込期限/10月19日(金)
- ◎ 詳しくは、下記にお問い合わせください。
- ◎ 県健康推進課 ☎ 022(211)2637 <http://www.pref.miyagi.jp/kensui/>

10月は3R推進月間です! あなたもこの機会に3Rでごみを減らしましょう!

- リデュース Reduce ごみを減らそう
- リユース Reuse 繰り返し使おう
- リサイクル Recycle もう一度資源に

～あなた自身が主役です!～

快速で便利な日常生活を支える活動の結果、県内では家庭などから、1年間に81万3000トン(Kスタ宮城15個分)ものごみ(廃棄物)が発生しています。また、東日本大震災で発生した大量のがれき処理やそれに伴う最終処分場の埋立増加がクローズアップされています。限りある資源を有効に活用するためにも、ごみ(廃棄物)の3Rを進めることが大切です。10月の「3R推進月間」に、県ではさまざまな取り組みを行っています。ごみを減らすため、無駄なものも減らし、もう一回「リデュース」、まだ使えるものは再利用する「リユース」、分別を徹底して再資源化を図る「リサイクル」を心掛けてください。

- ①「宮城県グリーン製品」を見てみませんか
県では、環境に優しい製品を「宮城県グリーン製品」として認定し、普及啓発に努めています。この「宮城県グリーン製品」を、右記の展示会で展示します。ぜひ手にとってご覧ください。なお、グリーン製品について詳しくは、下記ホームページをご覧ください。
- ②高校の文化祭で3R活動をしませんか
県は、高校の文化祭で行われる3Rに関する活動に対して支援を行っています。3Rに関する情報が掲載されたパンフレットなどの提供や、県のホームページで活動を紹介するほか、優秀な活動には表彰も行います。申し込みは11月2日(金)までとなっています。詳しくは、下記へお問い合わせください。
- ③3Rを学びませんか
県は、3R推進月間をPRするため、10月12日(金)まで県庁2階ロビーで3Rに関するパネル展示を行っているほか、今月中的毎日、東北放送とFM仙台でラジオCMを放送しており、ご当地ヒーローの「タッチャー」が3Rの推進を呼び掛けています。また、3Rについてのご理解を深めていただくため、ミニ情報誌「循環通信」を毎月下記ホームページで発行しています。市町村が行っている3Rの支援や企業の取り組み、3Rに関する用語解説など、各種情報を発信していますので、ぜひご覧ください。

- ◎ 県資源循環推進課 ☎ 022(211)2649 Eメール sigenp@pref.miyagi.jp <http://www.pref.miyagi.jp/sigen/>
★県ではマイバグ活動の普及啓発を行っています。お買い物の際はマイバグを持参しましょう。
- ◎ 県健康推進課 ☎ 022(211)2637 Eメール kensui@pref.miyagi.jp <http://www.pref.miyagi.jp/kensui/>